



「いきいきとした社会生活実現をサポート。さらなる可能性への挑戦」

PROFILE

事業類型:A型 B型

(株)誠晃 障害者就労センターみなよし(A型) リリいふ(B型)
街のふくろう 生活困窮者等準備就労 ライフサポート鹿児島
代表者/星原誠 スタッフ/15名 利用者/45名程度

事業概要

- ・菌床椎茸 みかん6ha 米(4.5ha請負耕作で)
- ・施設外就労:露地野菜(かぼちゃ・ムクナマメ等)

農福連携をはじめたきっかけ

農業が好きで農協へ勤務。17年後に「人のためになる仕事を」と地域支援を目的とした事業所を開設。実家の近くで母が児童福祉施設に勤め、自身の親友がいた。

沿革(画期区分)

- 平成25年(2013) 法人設立
認定農業者を取得
- 平成26年(2014) 知人の斡旋等で菌床椎茸に着手
- 平成27年(2015) 農業委員就任(鹿児島市)
- 平成28年(2016) 公共施設等で事業所告知活動等(ティッシュ配布等)
市内アーケードでのポスティング・パンフレット配布等
看板設置・電車つり革等で「みなよし」をPR(現在も継続)
- 平成29年(2017) 錦寿豊苑主催の農福セミナー受講 みかん栽培開始
- 平成30年(2018) 生活困窮者等準備就労の開始
- 令和元年(2019) B型相談支援事業所
- 令和2年(2020) 農福JAS取得(鹿児島県県初)

(株)誠晃のマッチングストーリー

農協の営農指導員(旧グリーン鹿児島農協)を経て開所。当初は「障害者に農業はできるのか」という偏見もあった。しかし、地域は年々高齢化が進み、担い手減少、かつては子供が農作業に参加する土地柄だったが今では高齢のひとり農家が増え、廃地・荒地になりつつある。しかも、土地の条件がよくても担い手がないという局面を迎えていた。

まずは作業受託を中心に活動開始、やがて菌床しいたけに着手。山川地区に古いハウスがあると同級生の知らせを受け、解体・移設・サビ落としなどスタッフ・仲間・業者と一緒に準備作業を行なった。併設の事業所は市街化調整区域であるものの交渉を重ね、特例で農産物の出荷調整所という名目で開設に至った。水稻の作業受託は「来年も是非」と依頼が増加。みかん園も開始し、農業委員にも就任した。事業所として根を下ろしているところから拠点になると考え、単独ではなく地域連携を構想している。「さらなる可能性への挑戦」として、提携する他の複数の福祉事業所をまとめて共同受注に近いような連携体制構築を目指している。



■ (株)誠晃のマッチングポイント

1 マッチングの形態

星原氏とスタッフ8人で担当を決めず、3名のコアスタッフとともに個性や希望を重視して作業を振り分けている。当たり前だが、「利用者と人として接する」ことを心がけている。

2 その発展過程

スタッフの習熟度も向上し、作業を覚えた利用者が新しい利用者へ教えるという文化が根付き始めている。利用者の自発的行動を規制するところもあるが、星原氏はフランクさを大切にしている。生活困窮支援を受けていた利用者がスタッフへと昇格した例も。

3 行政による財政的・人的支援

農協勤務時代に培った市職員との関係が、事業所開設の一助となる。ネットワークや拠点づくりには地域包括事業所が理解してくれた。現在は国の防災営農対策事業や市の人・農地プランの活用などを検討中。

4 農業関係団体・福祉関係団体との連携形態

県内の事業所で構成する共同受注センターと連携。社協は好意的で、研修や情報提供等を受けている。

5 マッチングの対象

地域: 市内・近隣市外等 他事業所にできない難しい作業が来る

品目: 水稻・みかん・菌床椎茸・露地野菜(ムクナマメ等)

障害者だけでなく社会的弱者を就労として年中無休で支援している。

6 コーディネーターの育成方法

スタッフや利用者とは絶えず会話をし、日常的なコミュニケーションをとっている。サビ管等と相談しながら、自然に、かつ怪我をしないことを一義に、任せることを考えることを促している。結果、利用者から作業について質問・意見が多く、自立につながっている。



みなよしのネットワークと取り組み

